

施策番号	446	施策名	定住化の促進	令和4年度主管課名	まちづくり課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和4年度課長名	柳井 和彦
	関係課名	くらし安全課 産業観光課 建設課 総合福祉課 健康推進課 他		シート作成者	山本 泰成

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	7年度	
ア 町民	→	ア	人口	人	見込値			11,800	11,627	11,280	
						実績値	12,625	12,497	12,358		
イ 町外の住民	→	イ	対前年人口増減	人	見込値			-170	-173	-175	
						実績値	-129	-128	-139		
ウ	→	ウ			見込値						
						実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	7年度	
ア 鏡野町に住み続けてもらう	→	ア	鏡野町に住み続けたいと思う町民の割合	%	目標値	85	86	86.5	87	88	
						実績値	86.9	83.9	85.7		
						達成率	102.2%	97.6%	99.1%	98.5%	97.4%
イ 鏡野町に転入してもらう	→	イ	人口の社会増減数(転入人口-転出人口)	人	目標値	2	4	6	10		
						実績値	-51	37	-33		
						達成率	1850.0%	-825.0%	-550.0%	-330.0%	
ウ 雇用の場を創出する	→	ウ	法人税割納付法人数	社	目標値	80	80	80	80	80	
						実績値	77	95	115		
						達成率	96.3%	118.8%	143.8%	143.8%	143.8%
エ	→	エ			目標値						
						実績値					
						達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方		ア)イ)定住化を促進する目標として、町外転出を抑止する視点等から、住み続けたいと思う町民の割合と転入人口を成果指標とした。 ウ)雇用の場の創出が定住する要因と考えられるため、法人数を指標とした。		⑥ 成果指標の把握方法と算定式等		ア)町民アンケートにより把握 イ)ウ)担当課調べ					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと意識を高めるよう努める。</li> <li>子どもたちに鏡野町の自然・歴史・文化などの良さを伝えていく。</li> <li>地域は、移住者・転入者を寛容に受け入れ、良好なコミュニティの形成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡野町の良さや独自性を町民や町外者にPRしていく。</li> <li>移住・定住のための生活環境基盤の整備・支援に努める。</li> </ul>

3. 評価結果

4年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か?その要因は?)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>町民アンケート結果で「鏡野町に住み続けたいと思う町民の割合」は、目標値86.5%に対して85.7%で目標値は達成できなかった。年代別に見ると、30歳代以上は概ね80%以上の方が住み続けたいと回答しているが、20歳代は60%で他の年代と比べて低くなっている。</li> <li>人口の社会増減数(転入、転出人口)についても目標値を達成できなかった。これは町内企業関係の転出者増と外国人労働者の転入数が減少したことが要因である。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「鏡野町に住み続けたいと思う町民の割合」は昨年度より向上した。大幅に低下した昨年の状況よりは向上したが、令和2年の86.9%の高い水準までには戻り切れていない。20歳代では令和3年度の65.4%から令和4年度は60.0%と約5.4ポイント低下している。回答者数の減少も要因の一つと考えられるが、単身世帯など条件に合う住居や、職場の選択肢を広げるため、転出を検討している可能性がある。</li> <li>転入、転出人口については、令和3年度において転入人口が転出人口を上回ったが、令和4年度は下回った。これは町内企業関係の転出者増と外国人労働者の転入数が減少したことが要因と考えられる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した
	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年1月1日と令和4年1月1日の住民基本台帳人口比較において、県内ではすべての市町村で人口減少となっている。鏡野町においては1.14%の減少であり、近隣では、津山市1.19%減、真庭市1.97%減、美咲町2.20%減、久米南町2.38%減、勝央町0.64%減、奈義町0.05%減といった状況である。なお、県内で最も減少しているのは高梁市で2.95%減であった。定住自立圏内での平均値(1.26%)に近い値のためほぼ同水準と判定する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの影響で活動に制限がかかっていたが、状況が好転したことにより、県外(近畿圏・首都圏)での活動を再開した。</li> <li>アフターコロナの施策として国からデジタル田園都市国家構想により、テレワークやサテライトオフィスなどが推進された。</li> <li>町民アンケートで定住施策について何が必要かの質問に対しては、日常生活の利便性、医療機関の充実、公共交通機関の充実が上位の意見として挙げられた。</li> </ul>	
	3. 施策の振り返りと総括(4年度の事務事業や取組の成果は?うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	
① 施策の成果向上につながった主な事務事業	人と地域をつなぐ鏡野町案内人事業	
② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	田舎暮らし体験事業	
③ 施策全体の振り返りと総括		
<ul style="list-style-type: none"> <li>町の知名度向上対策及び情報発信として、コロナの状況を考慮しながらも県外での移住・定住相談会への参加を再開し、首都圏・近畿圏で開催し情報発信した。</li> <li>移住・定住希望者への支援の充実として、長期お試し住宅整備事業を新たに先行し、上齋原地区の住宅を借り上げて整備した。また、登録空き家の売買成立件数は6件であり、空き家バンクの新規登録件数は21件であった。令和4年度に空き家等実態調査を行った影響もあり、登録件数は昨年比で10件増加し、空き家を処分したい方が増えていると感じている。田舎暮らし体験事業での移住体験ツアーは、令和4年度は15名の方に参加していただいたが、その中で町内に移住していただいた方はいなかった。婚活イベントには45名が参加いただいた。どちらも前年より参加者が増えた。昨年度婚活イベントに参加された方の中から1組結婚された。さらに、ふるさと就職奨励金を22名の方に交付し地元就職の推進を図った。</li> <li>関係部署との連携としては、部署横断的な取り組みを推進することが必要であり、定住自立圏の各ワーキンググループでの事業として取り組んだ。</li> </ul>		
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)		
① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	人と地域をつなぐ鏡野町案内人事業	
② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向		
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果からも日常生活の利便性や医療、公共交通など、複数の施策に関する事項があることから、各担当部署が連携して課題解決を行う。</li> <li>住む場所と働く場所の確保が必要であるが、特に空き家については足りていない状況である。住む場所の確保のためにも空き家の利活用をさらに注力する。行政のみならず地域づくり協議会に協力をしてもらい、常に最新の情報を把握できるような体制づくりに取り組む。更なる掘り起こしと現在ある空き家の有効活用の工夫などを今後の事業展開につなげるとともに、長期お試し住宅の整備により移住しやすい環境を整える。</li> <li>町の知名度向上や移住定住支援をより強化するため、人と地域をつなぐ鏡野町案内人事業の成果を向上させる。相談窓口での相談から移住定住につながる取り組みを工夫する必要がある。また、SNS等を利用して情報発信に注力する。</li> </ul>		